

# 「地域の縁がわ」熊本モデル事業 (健軍くらしささえ愛工房)

## 熊本県

人口：1,858,522 人

面積：7,404.83 km<sup>2</sup>

### 取組の概要

県営住宅の1階に福祉サービスを行うための施設を整備し、企画提案公募により決定した NPO 法人「おーさぁ」に有償で貸し付け、地域住民、ボランティア等とのパートナーシップによる事業運営を行いながら、高齢者福祉、障害者福祉、子育て支援、ニート対策、ボランティア人材育成など総合的、かつ先駆的な地域福祉サービスのモデルづくりを行っている。

### 取組の紹介

#### 1 取組の背景

- ・ 昭和 36～37 年にかけて建設された「健軍引揚者住宅」の建て替えの際、国土交通省住宅局の「公営住宅団地建て替えにおける社会福祉施設の併設に関する指針」を参考に、併設する福祉施設についての検討を行った。
- ・ 健軍地区は熊本市の中でも高齢化が進んでおり、交通の利便性が高く、商店街等の地域資源が豊富な地区である。
- ・ また、地域住民へのアンケート調査や座談会を行い、地域住民のニーズを調査したところ、福祉ニーズは高いという調査結果が得られた。
- ・ このため県では、健軍地区が地域共生型の福祉モデル事業を行う地区として最適と判断し、平成 16 年 3 月に策定した県地域福祉支援計画「地域ささえ愛プラン」に基づき、県が重点的に進める「地域の縁がわづくり」のモデル事業として整備を行った。

※ 「地域の縁がわづくり」とは、地域の誰もが日々の暮らしに安心を覚えることができ、気軽に集い触れあうことができる福祉の拠点（＝地域の縁がわ）づくりのこと。

#### 2 取組の具体的内容

地域福祉の拠点として整備した県有施設を、企画提案公募により選定した NPO 法人に有償で貸し付け、創意工夫を活かすとともに、地域住民や他団体等の参画も得ながら、人材育成も含め、先駆的な地域福祉サービスを行い、これをモデルとして、他地域への普及を図る。

(1) 施設概要

整備内容	基本施設
① くらし安心処 (約 650 m <sup>2</sup> ) 先駆的な在宅福祉サービスを開発・普及するための複合在宅福祉サービスセンター	食堂及び機能訓練室、静養室、相談室 談話室、厨房、浴室、脱衣室、トイレ デイサービス・ホームヘルパー事務室
② 地域の縁がわ (約 350 m <sup>2</sup> ) 誰もが気軽にサービスを利用したり、参加できる多機能地域福祉スペース	プレイルーム、ほふくルーム、授乳室 喫茶スペース、交流スペース、トイレ

(2) 事業内容

① 健軍くらしささえ愛工房

小規模多機能型居宅介護 【地域密着型サービス】	H18.6.1 サービス開始 登録定員 25 名
介護予防小規模多機能型居宅介護 【地域密着型介護予防サービス】	(同上)
介護保険デイサービス	一般型 15 名 毎日 小規模多機能型居宅介護利用者以外 付随して自主事業の泊まりあり
子育てスペース	一時預かり、子育て相談、親子広場、 世代間交流
喫茶コーナー	障害者雇用

② 夢・サポート健軍

健軍商店街の空き店舗を利用した、不登校、引きこもり等不適應問題を抱える若者の居場所

不登校児支援	居場所づくり
引きこもり支援	ボランティア受入、訪問、相談、就労支援、有償ボランティア等
ニート支援	ルーテル大の教授と連携して親面接、本人面接、就労支援等

③ 地域人材育成

- ・ 地域住民や商店街の店主等による地域福祉の研究会「地域福祉塾」の実施
- ・ NPO 法人の事業計画や理念等の発表を兼ねたフォーラムの開催や地域ケア体制確立のための実践研究
- ・ 近隣小中学校でのボランティア体験、商店街での車いすスタンプラリー、ナイスストライ (職場体験) 受入等
- ・ 子育て支援者養成講座
- ・ 障害者在宅支援のための当事者ボランティア研修 等

### **3 取組の効果**

- ・ 県営施設を有償で貸し付ける方式をとることで、県にとっても運営費等の支出を伴わず、貸付料による収入の確保も可能となる。一方で民間団体にとっても、投資（土地、建物等の確保）が一度に必要なことから、先駆的な事業開始へのハードルが低くなる。
- ・ 現在、健軍くらしささえ愛工房は 24 時間 365 日のサービス提供を行っており、いつでも誰でもが気軽に集える地域の拠点として、健軍団地の住民にとどまらず、健軍地域の住民が広く利用している。
- ・ 喫茶や子育てスペースの利用者は増え続けており、現在は固定客も多い。
- ・ 引きこもりやニート、いじめに関する相談、発達障害者の喫茶でのボランティア、通院付き添いボランティアなど着実に地域の縁がわとしての効果が表れている。
- ・ 健軍くらしささえ愛工房の取り組みについては、パンフレットを作成して配付したり、フォーラム開催時に参加を呼びかけるなどして、県内市町村等に普及啓発を行っている。その結果、これまでに 1,000 人を超える視察者が健軍くらしささえ愛工房を訪れている。

### **4 取組中の課題・問題点**

- ・ 施設の賃貸方式をとることで、運営費等の県の支出を伴わず、一方で家賃により県費の回収が可能となった。
- ・ しかしながら、当時、現在の健軍くらしささえ愛工房のような複合型福祉施設の整備への補助金については国土交通省の国庫補助（公営住宅の整備に関する補助制度）のメニューがなく、補助を受けることができなかった。
- ・ また、厚生労働省の補助金についても、県が主体的に介護サービス事業を行うことを前提としており、民間事業者に施設を有償で貸与する方式には使用することができなかった。

### **5 住民の反応・評価**

- ・ 県営団地建て替えの際、地域住民の意見を聞く機会を設けたり、地域の全世帯に希望する福祉サービスなどのアンケートを行ったりして、地域のニーズに沿った福祉サービスを提供している。
- ・ 地域の高齢者からは、「今までどこにも行くところがなく寂しい思いをしていたが、集える場ができて良かった。」との声が寄せられ、子育てスペースを利用している母親達が喫茶スペースに集うなど、「地域の縁がわ」としての役割を果たしている。

## **6 今後の課題**

### (1) 「地域の縁がわづくり」モデルの普及啓発

- ・ 今後とも、「おーさあ」、地域住民、商店街、小中学校、保健福祉センター等の関係機関との連携をより一層深め、ともに当該地域の地域福祉の展開を進めていく。
- ・ また、県内各地に「健軍くらしささえ愛工房」の取り組みの成果を発信し、市町村合併が進む中で使われなくなる公共施設や商店街の空き店舗等、地域資源を通じた取り組みを働きかけていきたい。

### (2) 過疎型地域支え合いモデルの普及啓発

- ・ 健軍くらしささえ愛工房は、人材や資源が豊富な「都市型」の取り組みである。
- ・ 支え合う人材の少ない過疎地域では、地域住民の支え合いシステムが有効であるため、少子高齢化が進み集落の維持すら困難な過疎市町村での地域支え合いのモデルづくりを進めていく。

## **7 今後取り組む自治体に向けた助言**

- ・ 少子高齢化の進展や地域内のつながりの希薄化等に対応するため、地域の様々な人々と連携したきめ細かな福祉サービスを総合的に提供する地域福祉の必要性はますます高まっていくものと思われる。
- ・ これを実現するための、誰もが気軽に立ち寄れる「地域の縁がわ」の創設は、地域福祉の推進に非常に効果的である。

### **(参考) 当該取組内容の関連ホームページ**

(熊本県・地域福祉推進のためのHP)

<http://www.pref.kumamoto.jp/health/fukushisuishin/mokuji-engawa.html>

(けんぐんひろば)

<http://www.kengun.net/>

**担当部署：健康福祉政策課福祉のまちづくり室**